



環境報告書

2 0 1 7



八千代工業株式会社



集計対象期間

2016年度（2016年4月～2017年3月）

対象事業所

八千代工業の全事業所と連結子会社を含むヤチヨグループ全体を対象としています。これと一致しない報告内容については、個別に対象を明記しています。

<国内事業所>

八千代工業 国内事業所

本社および柏原工場（埼玉県狭山市）
鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）
鈴鹿工場 亀山事業所（三重県亀山市）
四日市製作所（三重県四日市市）
栃木研究所（栃木県さくら市）
埼玉研究所（埼玉県狭山市）

国内子会社

合志技研工業株式会社（熊本県合志市）
株式会社ウエムラテック（熊本県球磨郡あさぎり町、熊本県合志市）
株式会社合志テック（熊本県合志市）

<海外拠点>

八千代工業 海外子会社

ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）
イー ワイ マニュファクチャリング リミテッド（米国）
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）
ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）
ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー デシー ブイ（メキシコ）
ヤチヨ ドブラジル インダストリア エコメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）
八千代工業（中山）有限公司（中国）
八千代工業（武漢）有限公司（中国）
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）
ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベートリミテッド（インド）
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

合志技研工業 海外子会社

サイアム ゴウシ マニュファクチャリング カンパニー リミテッド（タイ）
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）
ゴウシ インディア オートパーツ プライベートリミテッド（インド）
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

<対象としていない子会社および関連会社>

※対象期間における事業活動を行っていません。

ヤチヨ インダストリー（ユーケー）リミテッド（英国）
ラグナ アソシエリアルティ インコーポレーテッド（フィリピン）

※事業活動を現地賃貸事務所で行っており、含めていません。

ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー（ドイツ）

目次

トップメッセージ	03
環境トピックス	04
ヤチヨ環境基本方針／環境マネジメント体制	05
気候変動への取り組み	05
省エネルギー／マテリアルフロー	06
オゾン層保護・地球温暖化	07
汚染防止対策／法規制への対応	07
2016年度環境実績	08
2017年度環境目標	09
環境マネジメントシステム／環境教育	09
環境データ	10

発行サイクル

年度1回（前回発行：2016年9月30日）

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」および、UNEP「GRI-G4（サステナビリティ報告ガイドライン第4版）」を参考にしています。

■ 環境情報の公開

八千代工業は、企業ウェブサイトを通じて環境への取り組みを公開し、本報告書を掲載しています。

八千代工業ウェブサイト「環境への取り組み」
<http://www.yachiyo-ind.co.jp/csr/eco/>



トップメッセージ

社会からその存在を認められ、期待される企業を目指して

私たちヤチヨグループは、地球資源を利用し恩恵を享受しながら事業活動を行っており、CO₂排出や廃棄物発生といった環境負荷を地球に与えています。その責務として、法令上の必要性や社会の要求を十分認識し、環境課題を企業戦略の一つとして捉えています。

このような考えのもと、製造業であるヤチヨグループは、製品の軽量化、材料リサイクルの促進、材料ロスの低減、製造工程の効率化などによって、環境に配慮した製品づくりを行っており、積極的に環境活動に取り組んでいます。

世界的に地球温暖化対策を進めるうえで、新しい枠組みである「パリ協定」が2016年11月に発効されました。我々、製造業を含む地球上で営む人々のすべてが低炭素社会から脱炭素社会に向けて、環境対策に取り組むことがこれまで以上に重要になってきました。

このほか、2015年に国連で持続可能な開発目標（SDGs※）が採択されました。これにより省エネ、省資源で製造できる製品を開発することなど、多くの環境課題への対応が求められています。

国際標準へのコミットメント企業のCSRとの考えのもと、2016年度においては海外拠点においてISO14001認証取得を推進し、新たに4拠点が取得でき、残る拠点においては今年度中に取得できるよう計画を推進しています。また2016年に施行された水銀汚染防止法に基づき、義務ではないものの工場内で使用される水銀灯をLEDなど別の灯具への交換を進めていきます。水銀灯は水銀の環境負荷のほか、電力消費が多く、寿命が短いためCO₂排出量の抑制効果が期待されできます。

製品では樹脂製燃料タンクにおいて、世界トップクラスの環境性能を実現した燃料タンクを開発し生産を開始しました。

この燃料タンクは構成部品を内蔵化し、その取り付け穴を廃止することで、蒸散するガスの発生を抑制できることが大きな特長です。これによりPM2.5の原因物質であるガソリンベーパー発生を抑えることが実現できました。

製品を生産する工場においては、日々の生産活動の中で改善点を抽出し生産効率の向上とともにエネルギー使用量を低減した、効率の良い生産を推進しています。中でも設備更新においては必要性に合った設備のダウンサイジング化を図り、稼働時のCO₂排出量の低減を図りました。

ヤチヨでは2017年4月からスタートした新しい中期計画の重点施策に「企業価値向上に向けたサステナビリティ展開」を掲げており、環境活動はもとより、社会的責任、CSRにおいても積極的に推進していく計画です。

自動車業界は従来のガソリンエンジンから電気自動車へと動力源が変化しようとしており、まさに変革の時期にきています。この時期にヤチヨは来る電気自動車台頭の時代に向け、地球環境を考えつつも時代に乗り遅れないよう事業運営を行ってまいります。

※SDGs : Sustainable Development Goals
2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に盛り込まれた17の目標



代表取締役社長

山口次郎



環境トピックス

柏原工場 環境コミュニケーションを開催

2017年3月、地域住民の方々をはじめ、NPO法人さやま環境市民ネットワーク、狭山市環境課の方々を柏原工場へお招きし、環境コミュニケーションを実施しました。

環境への取り組みについては、行政の環境基準よりも厳しい自主基準で化学物質をしっかり管理していることを説明し、実測値を開示することで地域の隣人として安全と安心を感じていただくことができました。また、事業内容の説明および工場見学では、燃料タンクの製造上で発生する樹脂片を製品材料として再利用している事例について評価をいただき、柏原工場の事業について理解を深めていただくことができました。



入間川クリーン作戦に参加

2017年3月、狭山市環境課主催の入間川クリーン作戦に57名の従業員とその家族が参加しました。この活動は市民・行政・企業・団体などが協働で行われるもので、ヤチヨは柏原地区の環境方針（5）にある『地域の環境保全活動へ積極的な参加と、事業所周辺環境の向上活動を通じて、地域社会との協調連帯に努めます。』に準じ、この活動に毎年参加しています。さらに、河川域の生物多様性への取り組みとしても有意義な活動であり、サステナビリティの観点から、地域の活動に参加してヤチヨを理解していただくことは非常に重要であると考えています。

当日は上流から流れ着いたペットボトルや、不法投棄とみられる家財など、多くのゴミが回収されました。

今後きれいな河川でありつづけられるよう、地域の活動に積極的に参加していきます。



“DBJ環境格付”を授与

2017年1月、日本政策投資銀行（＝DBJ）が実施している『DBJ環境格付』※にヤチヨが認定されました。今回は2011年、2014年に続き、3度目の受賞で、下記の点が高く評価されました。

- ① 環境負荷低減効果を把握し、着実にPDCAを回している点
- ② 省資源・省エネルギーの設計・技術の工夫などに力を注ぐとともに、環境に配慮した“樹脂製燃料タンク”の販売拡大を図っている点
- ③ 環境マネジメントシステム認証取得企業からの調達割合拡大や環境配慮したサプライチェーンの構築に着手している点

その結果、ヤチヨは、「環境への配慮に対する取り組みが十分」という格付を取得しました。

今後も日々の生産、開発において環境を意識した行動を地道に続けていきます。

※『DBJ環境格付』融資とは・・・

DBJが企業の環境経営度を評点化し、得点に応じて3段階の金利を適用する融資メニューです。



ヤチヨ環境基本方針

ヤチヨは、下記の環境基本方針および行動指針に基づき、さらに各事業所においてそれぞれの方針を定め、環境保全活動を推進しています。

ヤチヨ環境基本方針

環 境 基 本 方 針

わたしたちは、責任ある社会の一員として、持続可能な社会の実現に向け、全ての企業活動を通じて、積極的に地球環境の維持向上に努めます。

行 動 指 針

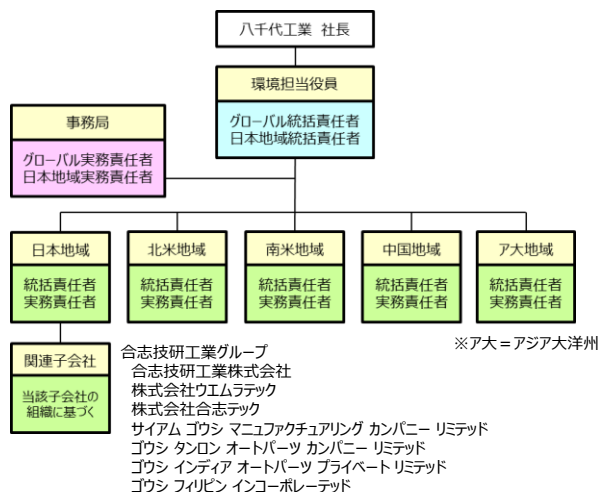
- (1) 事業活動、製品、サービスにおいて、地球環境に配慮し、環境課題の継続的改善を図り、環境負荷の低減および汚染の予防に努めます。
- (2) 全ての企業活動を通じて、資源・エネルギーの節減と資源循環に努めます。
- (3) 事業活動の各段階で発生する廃棄物・汚染物質の低減と適切な処理に努めます。
- (4) グローバルで環境改善活動に積極的に参画し、存在を期待される企業を目指します。

1998 年 6 月 25 日 制定
2014 年 8 月 26 日 改訂

2016 年 7 月 1 日
八千代工業株式会社 代表取締役社長

環境マネジメント体制

グローバルヤチヨとして環境への取り組みをさらに実効性のあるものとするため、世界 5 地域で組織し、それぞれに環境統括責任者および環境実務責任者を配置しています。また、国内外すべての事業所に、環境管理責任者および環境推進担当者を配置した運用体制を整備しています。



日本での環境保全活動は、各事業所において決定される環境中期計画と年度目標をもとにした環境マネジメントプログラムに基づいて進められています。

気候変動への取り組み

近年、地球温暖化による気候変動への対応が求められる中、自社領域におけるエネルギー起源のCO₂排出量のみならず、非エネルギー起源の排出量、Scope.3に該当するその他の間接排出量においても把握することにより、今後、サプライチェーンの観点で環境課題へ取り組んでいきます。

●2016年度 温室効果ガス排出量

集計範囲 … 本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所

GHGプロトコル		排出量
Scope.1	エネルギー起源	7,182 t-CO ₂
	非エネルギー起源	693 t-CO ₂
Scope.2	間接排出	18,913 t-CO ₂
Scope.1 + Scope.2 合計		26,788 t-CO ₂
Scope.3	Cat.1の一部	4,221 t-CO ₂
	Cat.9	1,312 t-CO ₂

※Scope.1 非エネルギー起源の排出は、第一種特定製品（フロン法定漏えい量）第二種特定製品（カーエアコンガス充填時漏えい量）および工業用ドライアイス

※電力換算係数は、国内固定係数0.378を使用

※Scope.3 Cat.1は、サプライチェーン内における外作、構成品を対象として集計

●CO₂排出量 低減施策

事業環境の変化に影響されにくい削減管理として、施策によって低減したCO₂排出量が把握できるようにしています。

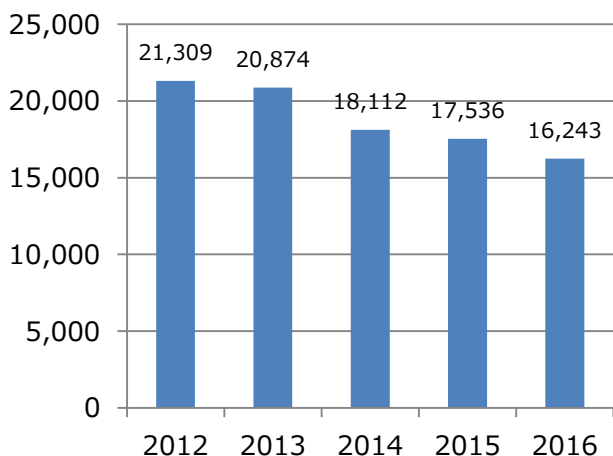
八千代工業 国内事業所を対象に、全施策を環境委員会で一元管理し、全社環境委員会開催時に事例報告を行い、情報共有と水平展開を図っています。主に、エネルギー効率の向上として高効率の新設備への更新、およびロス削減として既存設備の改善を実施し、環境に対するマナーとして取り組む地道な施策も含め、92施策を展開しました。

管理項目	目標	実績
CO ₂ 排出量 低減施策効果	434 t-CO ₂ /年	435 t-CO ₂ /年 (92施策)

集計範囲 … 本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所

省エネルギー

原油換算 kL



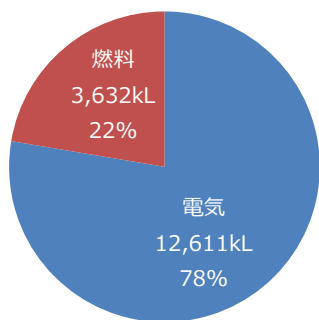
集計範囲 … 本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、
栃木研究所、埼玉研究所

2016年度のエネルギー使用量は、原油換算値で16,243kLとなり、前年度比92.6%となりました。原単位においては、対前年度比99.1%、5年度間平均原単位変化104.3%となりました。

今後、省エネ法の努力目標達成に向け、省エネ活動をさらに強化していきます。

※省エネ法（エネルギーの使用の合理化等に関する法律）努力目標
原単位改善率平均1%

【燃料と電気の比率】



マテリアルフロー

事業活動（製造、購買、営業、管理、研究開発）全般における資源・エネルギーの投入量（Input）と排出量（Output）を把握し、環境活動に役立て環境効率の改善に努めていきます。

集計範囲 … 本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、
栃木研究所、埼玉研究所

Input

区分	項目	使用量
エネルギー	電力（買電）	50,035 MWh
	灯油	37 kL
	軽油	0.1 kL
	LPガス	34 t
	都市ガス	3,059 千m ³
	電力（太陽光）	20 MWh
水資源	地下水	84,207 m ³
	工業用水	16,765 m ³
	上水	60,047 m ³
化学物質	取扱量	371.7 t
原材料	鋼材	26,462 t
	樹脂材	6,354 t

事業活動

Output

区分	項目	使用量
排出	CO ₂	26,095 t-CO ₂
	NO _x	1.48 t
	SO _x	0.01 t
	排水	79,927 m ³
化学物質	VOC	323.8 t
	PRTR対象物質	116.2 t
廃棄物	産業廃棄物	853 t
	直接埋立処分	0 t
	社外リサイクル	516 t
	有価物	3,230 t

<用語の説明>

NO_x … 窒素酸化物
 SO_x … 硫黄酸化物
 VOC … Volatile Organic Compounds
 = 揮発性有機化合物
 PRTR … Pollutant Release and Transfer Register
 = 化学物質排出移動量届出制度

オゾン層保護・地球温暖化

●第1種特定製品

ヤチヨでは、第1種特定製品の機器のリスト化、点検表の整備を行い全事業所でフロン排出抑制法への対応を行っています。2016年度の算定漏えい量は下表の通り、報告義務はありませんでした。

集計範囲 … 本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、
栃木研究所、埼玉研究所

冷媒ガス	漏えい量	GWP	CO ₂ 換算
R-11	68.0kg	4,750	323.0 t-CO ₂
R-23	1.0kg	14,800	14.8 t-CO ₂
R-404A	3.8kg	3,920	14.9 t-CO ₂
R-507A	2.3kg	3,990	9.2 t-CO ₂
算定漏えい量			369.1 t-CO ₂

事業者は、第1種特定製品の簡易点検（1回／四半期）、一定規模以上の機器においては、有資格者による定期点検（1回／年または1回／3年）が義務化され、整備に伴う冷媒ガスの漏えい量（充填量と回収量の差）が、1,000 t-CO₂（GWPによるCO換算）以上の場合、事業所管大臣への報告が必要となる。

●第2種特定製品

四輪車へのエアコンフロン注入時の漏えい

（算出式）生産台数×排出係数×GWP

集計対象 … 四日市製作所

冷媒ガス	漏えい量	GWP	CO ₂ 換算
R-134a	113.2kg	1,430	323.0 t-CO ₂

汚染防止対策

柏原工場、鈴鹿工場では、土壌・地下水の調査を行った結果、環境基準値を超えるテトラクロロエチレンが検出されたため2004年から地下水揚水バリア井戸を設置し浄化装置にて浄化を継続して行っています。

1年に2回浄化状況について測定を行い、行政に報告を行っています。

法規制への対応

●環境関連の法規制順守状況

2016年度に環境関連の法令違反は、ありませんでした。

●環境関連の法の執行状況

省エネ法において、2016年度に制度化された事業者クラス分け評価制度で、Bクラス評価となりました。そして、四日市製作所において、2016年12月14日資源エネルギー庁の委託を受けた省エネルギーセンターによるエネルギー現地調査を受けました。クラス分けの判断基準となる2015年度定期報告の結果は、原単位対前年度比106.9%、5年度間平均原単位変化114.1%でした。現地調査の結果、総合評価点は97.9点で、省エネ法「判断基準」を良好に遵守しているとの評価でした。

●環境に関する苦情・トラブル

2016年度、2事業所で地域からの苦情を受けました。2件の苦情に対しては、早急に適切な対応を取るとともに再発防止を図りました。以後、同様の苦情の発生はありません。

事業所	内容	対応
四日市製作所	騒音	休日工事における廃材回収ボックスへ廃材投げ入れ時の金属音による騒音。当該作業の工事業者へ注意、近隣地区自治会長様へのお詫びと説明、今回の事例の社内および工事業者への周知を行いました。
柏原工場	樹木の公道はみ出し	公道はみ出し樹木の剪定を当日実施し、狭山市都市建設部管理課担当者様へお詫びと処置の報告。以後、定期的に敷地外周の巡回を行い、即時対応を実施しています。

これらの苦情情報は、全社で情報共有を行い、他の事業所での環境に関する苦情・トラブルの防止を図っています。

環境目標

ヤチヨは、責任ある社会の一員として、全社方針として環境活動のグローバル展開を進めており、とりわけ気候変動（地球温暖化）、エネルギーリスクを重要課題と認識し、環境負荷のさらなる低減に向けて取り組みを継続しています。

●2016年度環境目標

※ 対象：八千代工業 国内事業所（本社、柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所）

項目		目標値
エネルギー起源CO ₂ 総排出量※1		38,500 t-CO ₂ 1990年度比 21%減
CO ₂ 排出量 原単位※2 (付加価値額原単位)	部品	2013年度比 3%減
	完成車	
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.5%相当削減)		434 t-CO ₂
VOC排出量 原単位※3 (塗装面積当たり原単位)	部品	前年度比 1%減
	完成車	
水資源使用量 原単位※3 (付加価値額原単位)	部品	前年度比 1%減
	完成車	
廃棄物量 原単位※3 (付加価値額原単位)	部品	前年度比 1%減
	完成車	

電力係数は、日本固定 1 MWh当たり0.378 t-CO₂を使用しています。

- ※1 CO₂総排出量は、業界団体（一般社団法人 日本自動車工業会、一般社団法人 日本自動車車体工業会）の公表値2020年目標28%削減（1990年比）に準じ、長期目標を設定して排出量管理を実施。
- ※2 CO₂排出量原単位の目標は、本田技研工業の指標に基づき、基準年度を2013年度に設定。
- ※3 VOC排出量、水資源使用量、廃棄物量の原単位は、毎年、連続して低減していきたいという観点から、前年度比1%減を設定。

環境実績

2016年度の環境実績は、下記の通りでした。

部品事業におけるCO₂排出原単位、廃棄物量原単位が悪化しました。

●2016年度環境実績

※ 対象：八千代工業 国内事業所（本社、柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所）

達成度判定：○=95%以上 △=80%以上 ×=80%未満

項目		実績	達成度
エネルギー起源CO ₂ 総排出量		26,740 t-CO ₂	○
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	部品	17.9% 増	※1 △
	完成車	2.9% 増	○
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.5%相当削減)		435 t-CO ₂	○
VOC排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	部品	0.1% 増	○
	完成車	4.3% 増	○
水資源使用量 原単位 (付加価値額原単位)	部品	1.8% 減	○
	完成車	11.8% 減	○
廃棄物量 原単位 (付加価値額原単位)	部品	7.2% 増	※2 △
	完成車	14.1% 減	○

※1 基準年度に足回り組立業種が終了し、熱源を有し比較的エネルギー使用比率の高い樹脂製燃料タンクが主要製品となり、

2014年度以降原単位が悪化しました。
対前年度原単位変化は、100.6%になります。

※2 鈴鹿工場の塗装分離槽清掃（頻度1回/2年）にて発生した

汚泥、廃液91tにより、前年度比において原単位が悪化しました。

2017年度環境目標

中期3か年最終年度である2016年度の終了に伴い、新たに2017年度から2019年度の中期3か年環境目標を設定しました。2017年度目標は下記の通りとなります。

今後もヤチヨは、持続可能な社会の実現に向けて環境活動を企業活動の中核課題として活動を強化していきます。

●2017年度環境目標

※ 対象：八千代工業 国内事業所（本社、柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所）

項目		目標値
エネルギー起源CO ₂ 総排出量※1		37,500 t-CO ₂ 1990年度比 23%減
CO ₂ 排出量 原単位※2 (付加価値額原単位)	部品	2016年度比 1%減
	完成車	
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.0%相当分削減)		266 t-CO ₂
VOC排出量 原単位※3 (塗装面積当たり原単位)	部品	前年度比 1%減
	完成車	
水資源使用量 原単位※3 (付加価値額原単位)	部品	前年度比 1%減
	完成車	
廃棄物量 原単位※3 (付加価値額原単位)	部品	前年度比 1%減
	完成車	

環境マネジメントシステム

環境活動において、国際規格へのコミットメントが企業のCSRとの考えから、2014年度から2016年度の中期3か年の重点施策として、海外現地法人におけるISO14001認証取得を進めてきました。

その結果、以下の現地法人が新たにISO14001規格の認証を取得しました。

2016年3月

ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー デシー ブイ (メキシコ)

2016年6月

ヤチヨ ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ (ブラジル)

2016年7月

ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベート リミテッド (インド)

2017年2月

ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (米国)

ISO14001認証取得は、国内事業所3地区、国内子会社1社、海外現地法人10社となりました。

※ 八千代工業 国内事業所の認証区分は、以下の通りです。

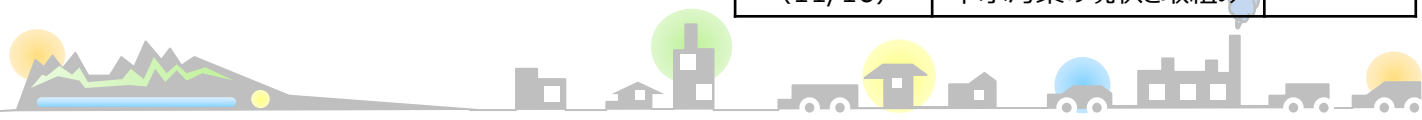
- ・柏原地区（本社、柏原工場、埼玉研究所）
- ・鈴鹿工場（鈴鹿工場、亀山事業所）
- ・四日市製作所

環境教育

本社・柏原工場・埼玉研究所では、環境意識の向上を図ることを目的として、2014年度から環境講話を実施しています。2016年度は埼玉県職員を講師として招き、「埼玉県における土壌・地下水汚染の現状と取組み」というテーマを、受講しました。

ヤチヨでも製造工程において化学物質を使用しており、取り扱いと管理の重要性を改めて認識する大変いい機会となりました。

開催	環境講話テーマ	受講人数
2014年度 (1/28)	地球温暖化 ～影響と対策	27名
2015年度 (12/9)	水素エネルギーの利用	58名
2016年度 (11/16)	埼玉県における土壌・地下水汚染の現状と取組み	50名



地域セグメントごとの環境データ推移

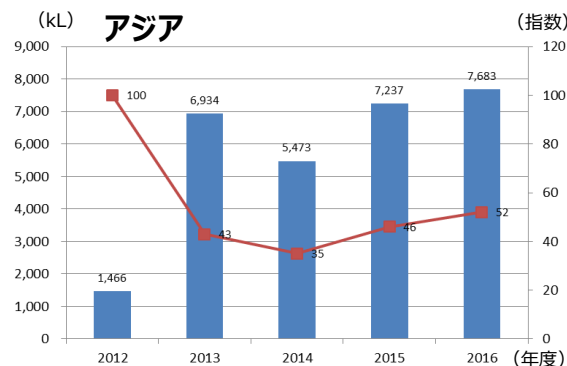
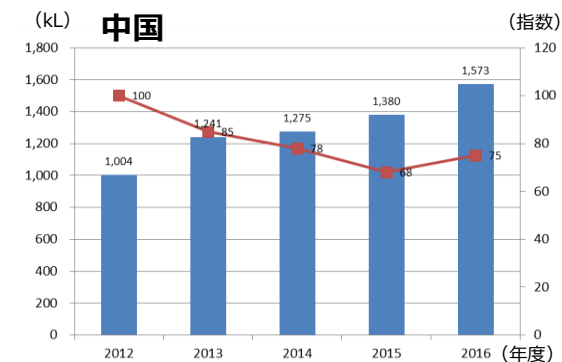
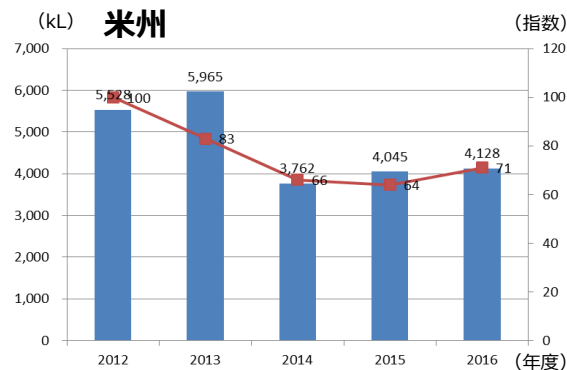
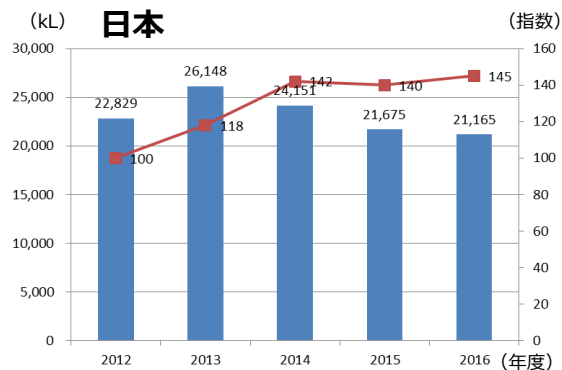
※集計範囲は、すべての環境データ
において右の通りです。

【日本】
合志技研工業グループ 2013年度～
(合志テック 2016年度～)
ワイジテック ～2014年度

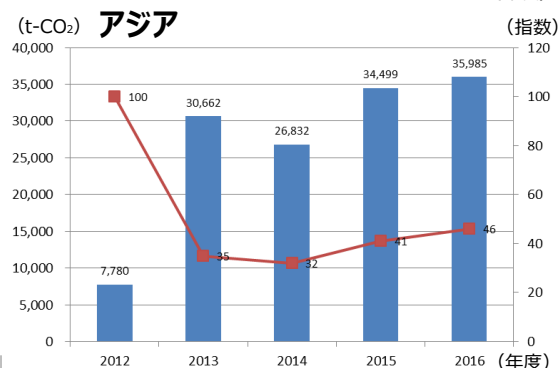
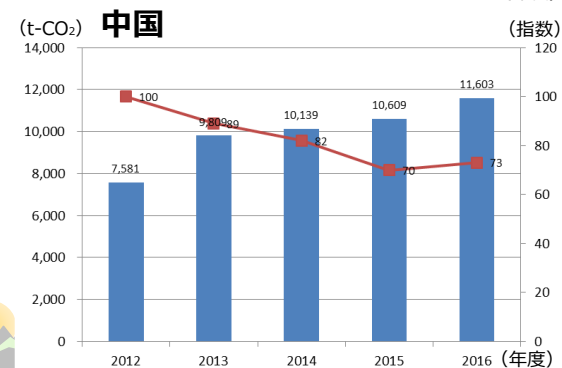
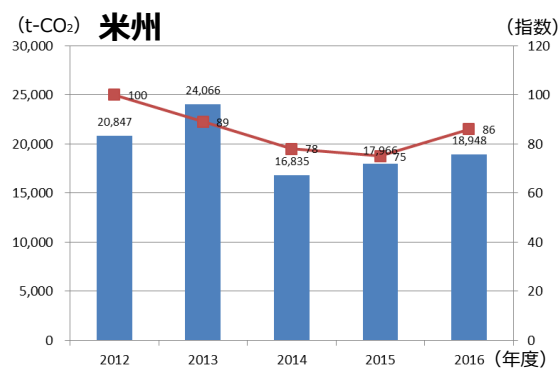
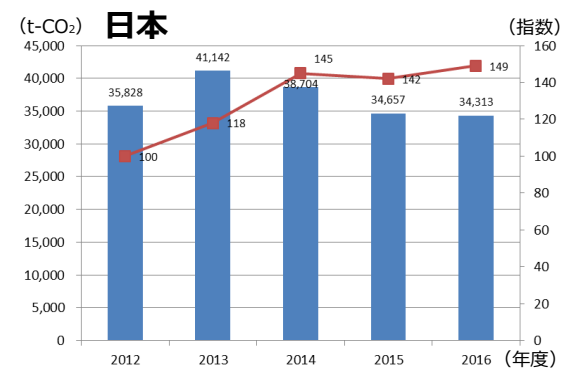
【北米】
Y O M ～2013年度
Y M M 2013年度～

【アジア】
合志技研工業グループ 2013年度～
(G P I 2016年度～)
Y I M 2012年度～
Y T I 2013年度～

●エネルギー投入量



●CO2排出量



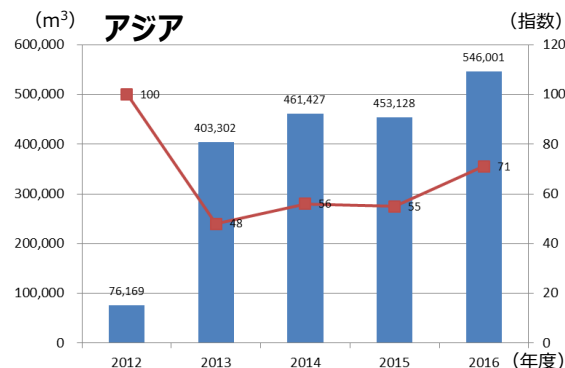
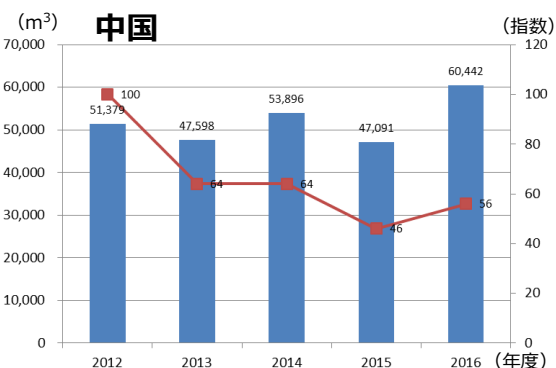
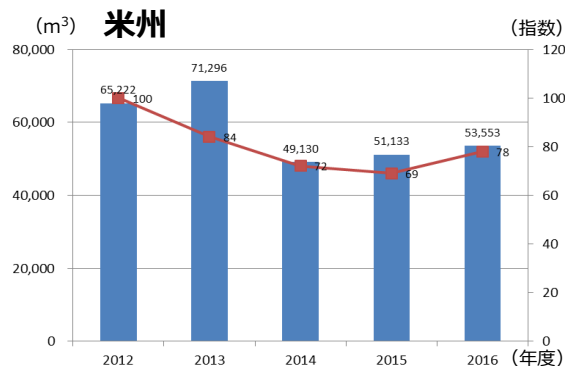
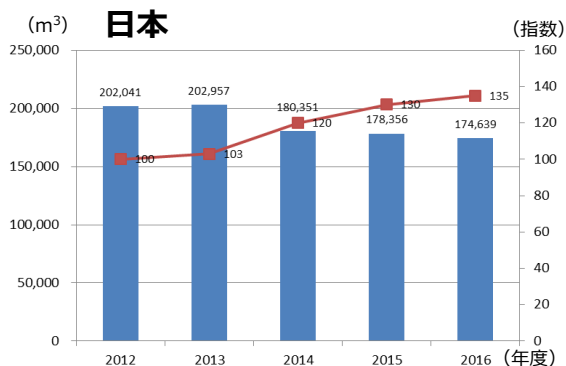
※集計範囲は、すべての環境データ
において右の通りです。

【日本】
合志技研工業グループ 2013年度～
(合志テック 2016年度～)
ワイジテック ～2014年度

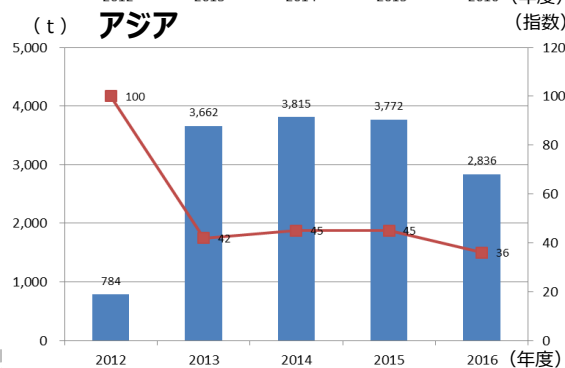
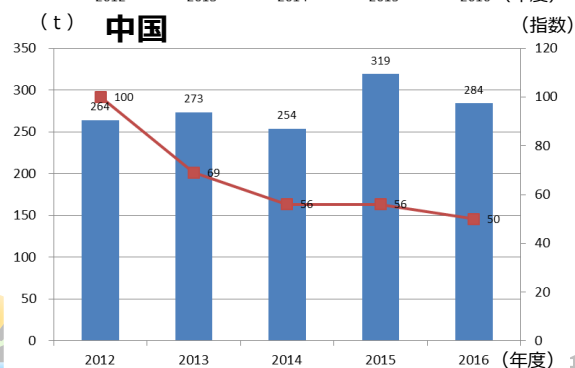
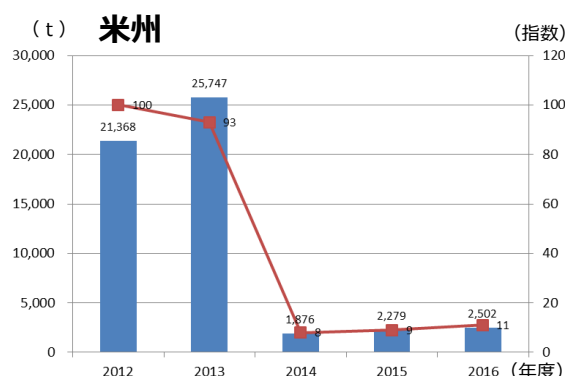
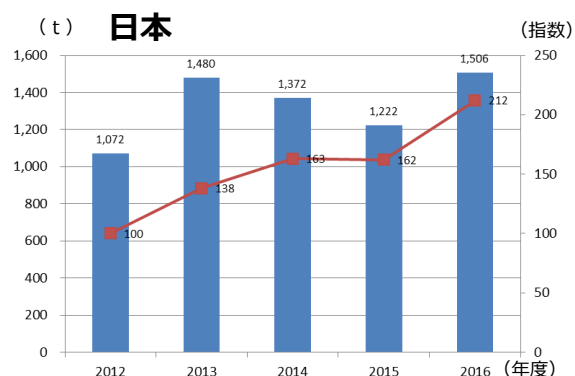
【北米】
Y O M ～2013年度
Y M M 2013年度～

【アジア】
合志技研工業グループ 2013年度～
(G P I 2016年度～)
Y I M 2012年度～
Y T I 2013年度～

●水資源使用量



●廃棄物量



すべての拠点のエネルギーと廃棄物量

● 日本地域

■ 本社・柏原工場

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	11,562 MWh	処分量	137 t
プロパンガス	10,590 kg		
都市ガス	213 千m ³		
水	24,567 m ³	従業員数 356名 臨時従業員 24名	

■ 鈴鹿工場 亀山事業所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	8,298 MWh	処分量	153 t
都市ガス	385 千m ³		
水	15,783 m ³	従業員数 122名 臨時従業員 6名	

■ 栃木研究所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,642 MWh	処分量	136 t
プロパンガス	2,679 kg		
灯油	34 kL		
水	6,771 m ³	従業員数 146名 臨時従業員 48名	

■ 合志技研工業

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	5,540 MWh	処分量	403 t
プロパンガス	155,968 kg		
都市ガス	193 千m ³		
灯油	440 kL		
ガソリン	9 kL		
軽油	1 kL		
A重油	472 kL		
水	19,947 m ³	従業員数 310名 臨時従業員 6名	

■ 鈴鹿工場

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,542 MWh	処分量	135 t
都市ガス	536 千m ³		
水	15,709 m ³	従業員数 77名 臨時従業員 6名	

■ 四日市製作所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	25,929 MWh	処分量	265 t
都市ガス	1,891 千m ³		
水	82,335 m ³	従業員数 499名 臨時従業員 92名	

■ 埼玉研究所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	2,561 MWh	処分量	27 t
プロパンガス	457 kg		
水	4,454 m ³	従業員数 158名 臨時従業員 8名	

■ ウエムラテック

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,718 MWh	処分量	24 t
プロパンガス	21,333 kg		
灯油	2 kL		
ガソリン	7 kL		
軽油	2 kL		
水	4,010 m ³	従業員数 111名 臨時従業員 72名	

■合志テック（日本）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	1,359 MWh	処分量	80 t
プロパンガス	112 kg		
灯油	23 kL		
ガソリン	8 kL		
軽油	15 kL		
水	1,919 m ³	従業員数 臨時従業員	90名 38名

●アジア大洋州地域

■ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	2,132 MWh	処分量	25 t
軽油	0.2 kL		
水	14,166 m ³	従業員数 臨時従業員	53名 0名

■サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	17,610 MWh	処分量	1,132 t
プロパンガス	36,864 kg		
灯油	9 kL		
ガソリン	49 kL		
軽油	5 kL		
水	246,011 m ³	従業員数 臨時従業員	908名 311名

■ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	2,656 MWh	処分量	－ t※
ガソリン	25 kL		
軽油	102 kL		
水	6,200 m ³	従業員数 臨時従業員	40名 29名

※ 地域行政によって一般廃棄物となっていることによる

■ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,439 MWh	処分量	756 t
プロパンガス	87,362 kg		
ガソリン	14 kL		
軽油	31 kL		
重油	4 kL		
水	69,709 m ³	従業員数 臨時従業員	275名 208名

■ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）

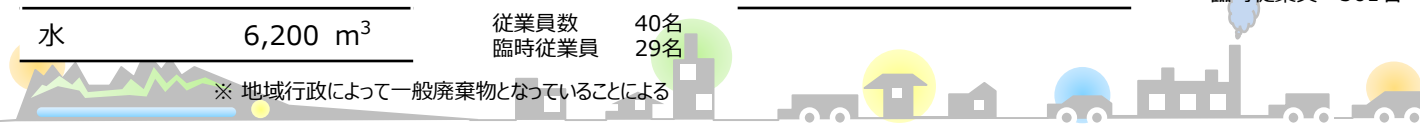
《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	16,970 MWh	処分量	2,196 t
プロパンガス	577,925 kg		
ガソリン	47 kL		
軽油	56 kL		
水	143,081 m ³	従業員数 臨時従業員	1,330名 95名

■サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	9,508 MWh	処分量	277 t
プロパンガス	125,586 kg		
水	64,674 m ³	従業員数 臨時従業員	370名 0名

■ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	5,290 MWh	処分量	804 t
軽油	1,090 kL		
水	2,160 m ³	従業員数 臨時従業員	271名 361名



●中国地域

■八千代工業（中山）有限公司（中国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	7,927 MWh	処分量	225 t
天然ガス	35 千m ³		
ガソリン	19 kL		
軽油	0 kL		
水	31,861 m ³	従業員数 臨時従業員	496名 0名

■八千代工業（武漢）有限公司（中国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	8,100 MWh	処分量	56 t
天然ガス	26 千m ³		
ガソリン	16 kL		
軽油	2 kL		
水	28,581 m ³	従業員数 臨時従業員	582名 0名

●米州地域

■ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	1,215 MWh	処分量	2 t
天然ガス	25 千m ³		
水	399 m ³	従業員数 臨時従業員	61名 0名

■イー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,778 MWh	処分量	839 t
プロパンガス	15,494 kg		
天然ガス	603 千m ³		
軽油	0.8 kL		
水	17,928 m ³	従業員数 臨時従業員	318名 56名

■ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	18,174 MWh	処分量	275 t
プロパンガス	39,080 kg		
天然ガス	150 千m ³		
軽油	6 kL		
水	10,916 m ³	従業員数 臨時従業員	162名 28名

■ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	8,053 MWh	処分量	565 t
軽油	0.4 kL		
水	6,255 m ³		
		従業員数 臨時従業員	135名 0名

■ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デー シー ブイ（メキシコ）

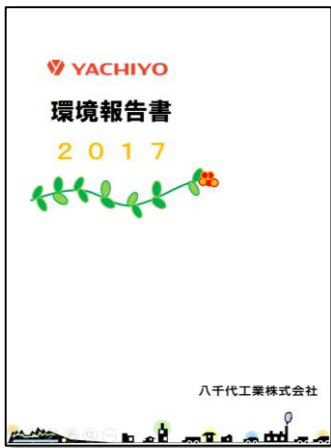
《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,548 MWh	処分量	683 t
プロパンガス	1,329 kg		
軽油	2 kL		
水	16,493 m ³	従業員数 臨時従業員	149名 0名

■ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	1,553 MWh	処分量	137 t
プロパンガス	1,940 kg		
軽油	0.7 kL		
水	1,562 m ³	従業員数 臨時従業員	41名 0名

環境報告書 2017

<環境報告書2017デザインコンセプト>



私たちの暮らしの中に必要な「衣食住」を絵として表現しました。
その中に人間が生きていくための「光、空気、水」の輪をイメージし、地球
（山）からの恩恵を受け、自然環境に帰る（向かっていく）、一連の
流れを表しています。



デザイン：経営企画室 経営企画ブロック 田村 博史

■編集

全社環境委員会

委員長 北村 哲也

事務局 倉田 周市

経営企画室 経営企画ブロック 若田部 智洋

■お問い合わせ

管理本部 総務部

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393

TEL 04-2955-1211（代表）

FAX 04-2955-1217

発行	八千代工業株式会社
発行責任者	総務部長 根岸 昭雄
発行日	2017年 10月

